

## 第 70 回SSN勉強会

### 各地域の実践から学ぶⅡ

尾澤伸幸（千葉市）

日 時：2016年11月28日（月）10：00～13：00

10：00～10：40 本日の学習支援の内容説明と学校林観察

10：40～11：45 6年生総合「森林土壌の持つ働き」の学習支援参観

12：00～13：00 本日の実践についての協議（昼食）

場 所：横戸小学校（千葉市）

担当指導員：内島、小川（洋）、落合、松尾、山田 参加者：12名

横戸小学校の研修室に入り、指導員の方から本日の6年生の学習についての説明を受けた。その後、早速学校林を見てみましょうということで外に出てみた。ちょうど業間休みであり、何人かは学校林に入り、飛び回って遊んでいた。なるほど校庭、学校林そして横戸市民の森とつながって広がっており、今が紅葉、落葉の時期であると目と肌で実感できるところなのだと理解した。

校庭では、6年生が待っており、学習はスムーズに行われた。始めは、森林の大切さ、森林面積の実情についての説明があった。（千葉県の森林率 31%で最下位だったとは驚きであった。）

次にそれぞれバケツに森林土壌と運動場の土を入れ、重さ比べを子どもにしてもらい、森林土壌の働きの実験に移っていった。

実験1（浸透実験） ペットボトルを加工して、それぞれに森林土壌、運動場土を入れ、上から水をかけ、下に染み出た水の量を比べた。

活動（土の硬さ調べ） 校庭と学校林の土に割り箸を刺し、硬さや柔らかさを調べた。

実験2（浄水実験） ペットボトルを加工して、森林土壌の量を多量、中間、少量にし、上からインク水をかけ、下に染み出るインク水の濃さを比べた。

指導員5名と子どもたちとの関係は、師弟関係のごとくであり、これは1年生からの積み重ねがきているからであろう。学校林を守るなど環境教育面での個々の育ちについても知りたいものである。

